

# 令和3年度 自己点検・評価の実施について

福島看護専門学校

## 1. 実施の趣旨

現在は、教育水準の維持向上と創意工夫のある教育への追求を計ることが求められる。本校が自己点検・評価に積極的に取り組むことにより、現状の分析・検討を行い教育活動、学校運営を見極め、教育活動の改善・向上を図るため、実施する。

## 2. 経緯

本校は平成19年4月に看護師養成3年課程の「福島看護専門学校」として開校し、平成30年度12期生までが入学している。平成14年4月専修学校設置基準の一部改正により専修学校は自己点検・評価の実施と公表が努力義務化され、平成19年には義務化となった。平成22年度より本校においても一部、自己点検・評価を実施してきた。平成29年度より学校評価委員会を立ち上げ、自己点検・評価を取りまとめ、現在に至る。

## 3. 自己点検・自己評価の目的

福島看護専門学校の教育理念の基に、「教育目的がどのように達成されているのか」また、「養成所としての水準をどのように維持・向上させているのか」を点検するため自己点検・自己評価を行った。

## 4. 評価項目

- I 教育理念・教育目的
- II 教育目標
- III 教育課程経営（教育課程経営の活動）
- IV 教授・学習・評価過程
- V 経営・管理過程
- VI 入学
- VII 卒業・就業・進学
- VIII 地域社会/国際交流
- IX 研究

## 5. 個人情報・守秘義務の取扱い規定の遵守

### I 教育理念・教育目的

- 点検 1. 教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している
- 点検 2. 教育理念・教育目的は、法との整合性がある
- 点検 3. 教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針となるように具体的に示している
- 点検 4. 教育理念・教育目的は、実際に学生の学習の指針になっている
- 点検 5. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている
- 点検 6. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法とるのかを述べている
- 点検 7. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質の保証するために、どのような教育環境をとるのかを述べている
- 点検 8. 教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している
- 点検 9. 看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている
- 点検 10. 教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している

## 点検 11. 卒業時にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている

### 令和 2 年度評価結果

結果は、80%以上が「3、当てはまる」と評価しており「2、やや当てはまる」まで見ると93%以上が高く評価している。詳細を検討すると点検 4 については、“学生の理解不足”や“変化している社会情勢により変更が必要”という意見がある。“学生の理解不足”に関しては、昨年と同様になるが、1 年次は入学時オリエンテーションや講義などでも教育理念や目標は折に触れて教員から話しを聴く機会がある。しかし、2・3 年生はその機会がほとんどないため、進級時だけでなく、学生がクラス目標を立てるときに意識できるように教員から話しをする必要がある。

“変化している社会情勢により変更が必要”については、2022 年カリキュラム改正に向けて変更準備している。

学生への周知：1 年次 オリエンテーション、クラス運営に関する機会

2・3 年次 進級時、クラス運営に関する機会

カリキュラム改正での変更を検討する

### 令和 3 年度評価結果

結果は、前年度よりも 0.1 ポイント上昇し 2.9 となった。評価理由をみると、点検 4 で評価理由に「学生に伝わっていない」「学生自身が意識できているとは言い難い」とある。これは、学生には学生便覧が配布されているため、学生への働きかけとして教員が積極的に行う必要がある。1 年次は入学時のオリエンテーションや看護概論系の講義など折に触れて活用されている。2, 3 年次は講義での活用は少なくなるため、進級時のホームルームで下級学年との違い、学年目標、時間割の特徴（学び）、学校内での役割、卒業時に期待される学生像なども説明したりする必要がある。

点検 6, 7 の評価理由に「具体的ではない」とあるが、学生便覧、学習内容、実習要項にも示している。

点検 8, 9, 10 の評価理由に「明確でない」とある。看護・教育・卒業時に期待される卒業生像などの明示がある。ただし、学生観に関しては、新入学生の全体像を教員間で共通認識することが必要かもしれない。

## II 教育目標

点検 1. 教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある

点検 2. 教育目標は、設定した教育内容を網羅している

点検 3. 教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読み取れるものとなっている

点検 4. 教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している

点検 5. 教育目標は、具体的で実現可能なものとなっている

点検 6. 看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している

点検 7. 卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している

### 令和 2 年度評価結果

86.6%以上が、「3、当てはまる」と評価している。点検 4.5 で「2、やや当てはまる」と評価も見られており、“表現を分かりやすくする”“具体的ではない”という意見である。

しかし、2022 年カリキュラム改正で見直しできるという前向きな意見も見られた。カリキュラム改正に向けて現在は見直しを進めている。

カリキュラム改正で表記や表現を分かりやすくするために、学生主体の表現にする。

#### 令和3年度評価結果

項目として昨年度より0.1ポイント上昇し3となった。昨年同様に点検4, 5で「2、やや当てはまる」の評価もあり、到達レベルの明確化が理由である。教育目標は最終的に卒業時に期待される学生像として明示されているため、教育活動のゴールであり、到達レベルとの対応がなされている。

### Ⅲ 教育課程経営

#### 令和2年度評価結果

令和元年度では2.8ポイントであったが、今年度は2.2ポイントであった。

#### 令和3年度評価結果

昨年同様2.2ポイントであった。

##### 〈教育課程経営者の活動〉

- 点検1. 教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している
- 点検2. 教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている

#### 令和2年度評価結果

点検1は、「3、当てはまる」と評価した者は53.3%であった。評価理由に、“学外講師の一部については、授業実践において関連性を理解できていない”とあった。年度初めに学内の教員からシラバスと内容の説明を行っているが、一つの単元を複数の講師で講義する場合などは内容を統一しにくい点があると考え。カリキュラム改正に向けて、現存のものよりも講義内容を詳細に掲載できるように、シラバスの表記の仕方を変更予定である。点検2は、シラバスや学生便覧等で各教員は教育理念・教育目的を意識はしているが、改めて教員全体での教育課程についての共通理解が必要と考える。

#### 令和3年度評価結果

「2. やや当てはまる」と評価され理由として、「教員によって解釈が違う」「全体としては不十分」とあった。ただし、分野設定、科目設定は示されているため基本的考え方は統一されている。また、新カリキュラムは教員全員で作成しているため、統一される。新入教員等があった場合は、分野設定・科目設定理由を示す。

##### 〈教育課程経営の考え方とその具体的な構成〉

- 点検3. 看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している
- 点検4. 学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している
- 点検5. 学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している

#### 令和2年度評価結果

評価理由に、“明確な根拠が必要”とあった。カリキュラム評価については年1回、授業・実習評価は終了毎に学生・教員からも評価を行っている。評価結果と内容を検討している。

#### 令和3年度評価結果

評価は、当てはまる・やや当てはまるとあるが、評価理由に「根拠が必要」とあった。昨年同様カリキュラム評価、授業評価については実施されている。また、根拠になるものとし

て分野設定・科目設定理由、構造図、学年目標、卒業時に期待される学生像として明示されている。

〈科目、単元構成〉

- 点検 6. 明確な考え方と根拠をもって科目を構成している
- 点検 7. 明確な考え方と根拠をもって単元を構成している
- 点検 8. 科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある
- 点検 9. 構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である
- 点検 10. 構成した科目は養成所の特徴をあらわしている

令和2年度評価結果

85%以上が「3、当てはまると」と評価している。現在、カリキュラム改正に向け教育課程を見直している。“自校の特徴について反映されているとはいえない”との意見があり、新カリキュラムでは、3つのポリシー（AP・CP・DP）との整合性を保ち、福島看護専門学校の特徴が表せることができるように検討を進める。

令和3年度評価結果

「2. やや当てはまる」と評価されているが、新カリキュラムで改善される

〈教育計画〉

- 点検 11. 単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している
- 点検 12. 単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている
- 点検 13. 単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目を配列している

令和2年度評価結果

80%以上が「3、当てはまる」と評価している。評価理由に、“単位履修の法がわかりにくい”とあった。単位履修の方法とその決まりに関しては、入学時オリエンテーション、その後は学年担当からの説明や声掛けをしており、2～3年次は学生の意識も高まり理解につながっていると考える。学生個人への指導は、該当者へ都度声を掛け再試験や再履修等実施している。また、学生手帳を活用し、単位取得の意識付けを行う。

令和3年度評価結果

単位履修の方法とその制約についてわかるように明示しているに対して「分かりにくい表現がある」と評価理由があった。学生便覧の「履修方法」を見直し、訂正表示した。学年担当からの説明や声掛けをし、学生には学生手帳を活用し、単位取得の意識付けを行う。

〈教育課程評価の体系〉

- 点検 14. 単位認定の基準は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である
- 点検 15. 単位認定の方法は看護師等に必要な学修を認めるものとして妥当である
- 点検 16. 他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている
- 点検 17. 教育課程を評価する体系を整えている
- 点検 18. 評価結果の活用における倫理規定を明確にしている

令和2年度評価結果

点検 18 の評価理由に“規定が不明確”とあるが、「福島看護専門学校倫理規定」として定められている。

令和3年度評価結果

点検 18 の評価理由に「規定はあるが、明確ではない」とある。倫理指針、「研究成果の発表」第 8 条に定められている。

#### 〈教員の教育・研究活動の充実〉

点検 19. 教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している

点検 20. 教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている

点検 21. 教育課程の実践者である教員が、自ら成長できるよう自己研鑽のシステムを整えている

点検 22. 教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている

#### 令和 2 年度評価結果

点検 19. 20 の評価理由に、“実習に出ている時間が多く、授業準備にかける時間がない”とあった。現在、実習時間中も学校に戻り授業準備をすることは許可されているが、実習場によっては離れられない場所も少なくない。そのため、授業スケジュールを考慮し、週間予定として学校に戻れるように実習指導者と調整する必要がある。また、クラス運営は主担と副担で役割の分担を行いながら、学校に戻るときに合わせて授業準備をする時間がお互いに取れるようにする。

点検 21. 22 自己研鑽のシステムに関して、評価理由に“システムはあるが運用できているのかが疑問”と挙げられてる。自己研鑽としてキャリアラダー、学内・外研修や授業参観制度を実施している。ディスカッションの場として、学年担当、実習領域、授業の関連科目など教員間の情報や意見交換の機会を作る。

#### 令和 3 年度評価結果

点検 20 の評価理由に前年度同様の内容があった。実習時間中も学校に戻り授業準備をすることは許可されているため、臨地実習指導者との調整の必要性は同様である。また、実習場に複数の教員がいる場合は、協力しあい調整する。

点検 21. 22 は、研修制度の整備、図書券での学習補助、特に今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、研修もオンライン実施も多く可能な時は教員も全員参加できた。今後も同様に、個々の研修参加は学びの共有の場を設ける必要がある。しかし、なかなか時間がとれないのも現状であり、時間を作る努力が必要である。

#### 〈学生の看護実践体験の保障〉

点検 23. 臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している

点検 24. 臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている

点検 25. 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている

点検 26. 臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている

点検 27. 臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている

点検 28. 学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している

点検 29. 対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている

点検 30. 臨地実習において学生が関係する事故を把握・分析している

点検 31. 学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている

#### 令和 2 年度評価結果

点検 31 の評価理由に“常に対応できるような定期的取り組みなどはない”と挙げられている。2～3 年生は実習オリエンテーション時に必ず医療安全についての教育を行っている。

インシデントなど発生した場合（感染も含む）は報告ツールやタイムリーな情報共有が為されている。実習場で振り返りと教員や指導者からも学生のメンタルフォローも行っている。また、学生カンファレンスや実習反省会等でもテーマに挙げて共有を実施している。

1年生は基礎看護学の講義の中で安全面に関する説明を行い意識を高めている。特に基礎看護技術の各単元では技術のみだけでなく、援助技術として医療安全の視点も必ず教授している。

#### 令和3年度評価結果

点検 23～27 までの評価理由に「施設により差がある」が多く挙げられた。実習指導委員会や指導者と情報交換を行い実習を行っている。施設ごとの差が学生に不利益が生じている状況ではないため、連携を密に学生の支援を行えるようにする。

## IV 教授・学習・評価過程

点検 1. 授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容として設定されている

点検 2. 授業のまとまりの考え方を明確に述べている

点検 3. 授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性を持っている

点検 4. 授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある

点検 5. 授業内容間の重複や整合性、発展性などが明確になっている

#### 令和2年度評価結果

授業内容は、科目のまとまりや目標など学習内容（シラバス）を通して明確に明示することができている。

H30年度 2.3⇒令和元年 2.7 と上昇したものの、令和2年度は 2.3 と再び下降がみられた。しかし、評価自体に大きな変動はみられない。学習内容の年1回の見直しも継続して実施している。2022年のカリキュラム改正準備も進めているため、授業内容の重複や整合性、発展性を意識しながら、今後も新カリキュラムに向けて授業内容の検討を行っていく。

#### 令和3年度評価結果

R2年度 2.3⇒令和3年度 2.4 と上昇がみられた。令和4年4月入学の16期生より新カリキュラムに沿った新たな学習内容（シラバス）での授業が開始となる。

授業内容は、科目のまとまりや目標など学習内容（シラバス）を通して明確に明示することができている。

#### <授業の展開過程>

点検 6. 授業形態（講義・演習・実験・実習）は授業内容に応じて選択している

点検 7. 授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している

点検 8. 授業の展開過程の他に学生の学習が深化し、発展するための方法を意図的に選択し学習を支援している

点検 9. 学生に対し効果的な教育・指導を行うために教員間の協力体制を明確にしている

#### 令和2年度評価結果

点検 8 「授業の展開過程の他に学生の学習が深化し、発展するための方法を意図的に選択し学習を支援している」について前年度と比較し、評価が下がっている。「1当てはまらない」と評価されており、個人の達成度や教授する者により不足と感じている状況があると考えられる。授業評価については、年2回行われるカリキュラムラダーによる評価（ヒアリング）により各教員にフィードバックされており、それぞれの振り返りから次年度の課題は明確にされているため、引き続き授業評価のフィードバックを行い、授業内容の評価・課題を明確にしていく必要がある。

#### 令和3年度評価結果

点検 9「学生に対し効果的な教育・指導を行うために教員間の協力体制を明確にしている」について「無回答」がみられた。コロナまん延による授業形態や演習内容の変更、遠隔授業による変更など、新たな教授内容を見出すことの必要性についても検討事項となった。そのような状況の教育・指導に対する戸惑いなどが無回答につながったと考える。

#### <目標達成の評価とフィードバック>

点検 10. 評価計画を立案し実施している

点検 11. 評価結果に基づいて実際に授業改善している

点検 12. 学生及び教育活動を多面的に評価するために多様な評価の方法を取り入れている

点検 13. 教育目標の達成状況を多面的に把握している

点検 14. 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している

点検 15. 単位認定の評価には公平性が保たれている

#### 令和 2 年度評価結果

点検 10、点検 11、では令和元年に比べ、上昇がみられた。授業評価の振り返りが提示されることで自己評価につながり、授業の改善につながったと考える。教員間に理解の差が生じており、前年度より周知はしているが、改善されない点もある。引き続き、授業評価のフィードバックを行っていく必要がある。

#### 令和 3 年度評価結果

点検 11、「評価結果に基づいて実際に授業改善している」で 6.7%「当てはまらない」との回答がみられた。「講師による」という回答もみられ、授業評価のフィードバックを教員、講師の授業計画に活かせるようにしていく必要がある。令和元年から引き続き、授業評価の振り返りが提示されているため、引き続き継続していく。

点検 15「単位認定の評価には公平性が保たれている」について 20%「やや当てはまる」との回答が見られたが、学生便覧に単位認定の評価については明示されており、公平性は保たれている。自己点検における差異については、教員の認識の違いによるものであると考える。学生便覧の共通理解が必要である。

#### <学習への動機づけと支援>

点検 16. シラバスの掲示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある

点検 17. シラバスの掲示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている

#### 令和 2 年度評価結果

シラバスについては、教員間で提示の仕方や活用方法など、共通して学生に伝えている。

点検 16、点検 17 に対して、「検討を要する」「一貫性がない」などの理由があることから、シラバスに対する教員間の共通理解が不足している部分があると考えられる。各教員がシラバスをどのように活用し、学生に伝えているか共通理解する必要がある。

#### 令和 3 年度評価結果

シラバスについては、教員間で提示の仕方や活用方法など、共通して学生に伝えている。

「利用が少ない」という回答も見られたが、教員のアプローチによるシラバス活用の促しをするなど、意図的な関わりも必要である。

## V 経営・管理過程

#### <設置者の意思・指針>

点検 1. 養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している

- 点検 2. 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している
- 点検 3. 養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している
- 点検 4. 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している
- 点検 5. 明示した管理者の考えと設置者の意志とは一貫性がある
- 点検 6. 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している

#### 令和 2 年度評価結果

ほぼ全員があてはまると回答したため、教育理念・教育目的・教育課程経営についての考え方は明示されているといえる。  
 設置者の管理運営に関する意思を理解出来るよう、定款等も含めて新入職員へのオリエンテーションを実施している。  
 養成所の設置者と管理者の考え方を理解できていないという回答が少数あった。  
 全教職員が養成所の教育理念、教育目的を理解し管理運営に関心をもてるよう、定期的に定款の内容を理解するための機会を設ける

#### 令和 3 年度評価結果

前年度同様ほぼ全員があてはまると回答しており、教育理念・教育目的・教育課程経営についての考え方は明示されているといえる。  
 「ややあてはまる」と回答した教職員は養成所の設置者と管理者の考え方がわかりにくいことを理由としている。  
 全教職員が養成所の教育理念、教育目的を理解し管理運営に関心をもてるよう、理事会の資料の配布や、定款の内容を理解するための機会を設けていく

#### <組織体制>

- 点検 7. 養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている
- 点検 8. 意思決定システムが明確になっている
- 点検 9. 意思決定システムは、組織構成員の意志を反映できるように整えられている
- 点検 10. 意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている
- 点検 11. 組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある
- 点検 12. 教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある

#### 令和 2 年度評価結果

組織構成及び役割分担については文書で明示されている。全体の意思決定システムとして職員会議があり、教職員は全員出席するため決定事項の周知はされている。  
 決定事項の周知の遅れを感じているものがいたが、会議に出席できなかった職員は議事録などから決定事項について確認できる体制をとっている  
 規程にある組織図で組織体制は明示されている。定款・規程集綴を教職員へ配布したが、内容についての説明はしていない。組織体制の理解を深めるために、定款・規程集綴を活用するよう促す。  
 教職員の意思が反映されていないと感じているものが複数名いた。  
 教職員も自己の役割を理解し、職員会議や教務会議などで意見を述べるなどの努力が必要である  
 教員の任用にあたっては、専任教員の資格・要件を満たしている者のみを採用している。  
 学生定員に必要な人員と専門領域を満たしている。  
 教職員の資質向上のため、ラダー評価を実施し、段階に合わせて研修の機会がある。

#### 令和 3 年度評価結果

「決定事項を周知しきれていない」「権限や役割が不明確」と評価する教職員がいたが、組織構成及び役割分担については明確な規定に基づき文書で明示されている。全体の意思決



定システムとして職員会議があり、教職員は全員出席するため決定事項の周知はされている。

自己点検は個人を評価するものではなく、学校運営を評価するものであると周知を継続し、自己点検の評価基準について詳細に説明していく

評価基準を理解したうえで、自己点検を行い教職員全員で経営意識を持てるようにする。

「教職員の任用が不明確」との回答があったが、教職員の任用に関しては指定規則を遵守して任用しており、教務事務や図書館司書も配置している

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のためWEB上での研修が多く、またカリキュラム改正のむけての研修も複数あり多数の教員が研修を受講することができた

#### <財政基盤>

点検 13. 財政基盤を確保することについての考え方が明確である

点検 14. 財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている

点検 15. 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している

点検 16. 教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようにになっている

#### 令和2年度評価結果

運営における財政基盤は予算書や歳出執行状況表に明示され、理事会総会にて承認させている。

また福島明星厚生学院経理規程に則り、財政状態及び経理状況を明らかにしている。

教職員は組織の一員として、理事会総会の資料などを参考に財政基盤を理解するための努力も必要である。

財源を計画的に運用できるように長期・中期計画を明確にする。

#### 令和3年度評価結果

養成所の財政基盤について、「やや当てはまる」と評価した教職員が複数おり、説明が必要であるとコメントしている。

理事会の資料配布だけでなく、理事会事務局から財政基盤について説明の機会を設ける。

財務情報は学校のホームページにも掲載している。

教職員自身も学習・教育の維持・向上のために財政基盤の確保について理解するための努力が必要である

#### <施設設備の整備>

点検 17. 学習・教育環境の整備について管理者の考え方を明示している

点検 18. 管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している

点検 19. 看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している

点検 20. 医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している

点検 21. 養成所が設置されている地域環境との関連から学生及び教職員にとっての福利厚生の施設設備の整備を検討している

点検 22. 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している

#### 令和2年度評価結果

指定規則に基づいて物品確認・備品の整理を毎年実施している。実施の際、次年度以降の購入計画を立案する。

学習・教育環境の整備については、職員会議等で管理者の考え方を明示している。

しかし教職員全員に整備計画が文書として明示されていない。施設整備を計画的に整備するため整備計画を文書で提示する。

看護の発展に合わせた施設設備の整備が必要であるが、関連施設に医療施設がないため、最新の設備を入手する手段が明確でない。最新の医療備品は、実習施設などから情報を得て購入やリースの目安とする。

カリキュラム改正に向けて、ICT教育に必要な物品を計画的に整備できるよう検討している

施設設備は、整備されているので積極的に活用するように設備を紹介する

#### 令和3年度評価結果

「面談室がない」というコメントがあったが、財政状況等を考慮すると面談室を増設することは困難である。学生との面談が必要な際は、情報処理室、演習室、調理実習室などの使用を検討する。

カリキュラム改正に伴い、演習用の教材やICT活用のための機材を計画的に購入予定である

学習環境充実のための備品等を計画的に購入しており、職員会議や教務会議で必要に応じて報告している

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、不織布マスクや消毒薬の購入も計画している。物品を使用する際は、整備計画の基づくものであることを、物品を使用する教職員が意識する必要がある

#### <学生生活の支援>

点検 23. 学生が入学後に学業を継続できる支援体制を多角的に整えている

点検 24. 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている

点検 25. 支援体制は、実際に活用され、学修の継続を助けている

#### 令和2年度評価結果

日本学生支援機構・自治体の看護職員修学資金・病院の奨学金貸与制度などを入学時より紹介している

また、授業料の分割納入制度もあり経済面の支援体制は整っている。

スクールカウンセラーの配置や学年担当による個人面談を行い、精神面への支援体制を整えている。

学習面ではアカデミー講座のガイダンスを低学年時から受け、2年次からは講師を招き講義が行われており、国家試験対策もとられている。

学生に支援体制が整っていることを、周知し活用できる環境を整える

#### 令和3年度評価結果

ほぼ全員があてはまると回答しているので、学生生活の支援は整っているとの評価だった。「ややあてはまる」の評価の理由に学生の意見を反映できるとよいとあった。

学生はカリキュラム評価にて、教育課程や支援について評価し意見を述べる機会がある。

支援が必要な学生には保護者と学生、教員での面談も適宜行っている

成績表は前期・後期2回に分けて。保護者に送付している。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月以降Zoomでの講義となったが、担当教員は毎日ホームルームで健康状態を確認し学生の支援に努めた

#### <養成所に関する情報提供>

点検 26. 教育・学習活動に関する情報提供を関係者（保護者等）に行っている

点検 27. 関係者（保護者等）への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている

点検 28. 看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行っている

点検 29. 広報の内容は、社会的責任を果たすものになっている

#### 令和2年度評価結果

例年2月に懇話会を開催し、学外講師・臨地実習施設関係者へ学内の情報を提供する機会を設けている。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催できなかったが、資料を送付し情報を提供した。

保護者へは、入学オリエンテーションや入学式にて教育・学習活動の情報を提供している。入学後も随時、郵送やメールにて情報提供している

保護者・家族からなる後援会は、会費により学習・学校生活の協力・支援を行っているホームページをリニューアルし、本校の教育理念やカリキュラム、学校行事、学校評価の結果などの情報を定期的に提供している。

#### 令和3年度評価結果

今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、懇話会は開催できなかったため、資料を送付し情報を提供した。

入学式・戴帽式・卒業式では、保護者の出席は1名のみの出席で縮小して開催し、学校側から保護者へ情報を提供する機会が少なくなった。

学内での様子を、ホームページへ掲載し情報提供に努めた。

新型コロナウイルスの影響で中止となった行事が多く、看護師養成所としての存在を十分アピールする場が少なかった。

ホームページで、学校評価の報告や財務情報を掲載していることで、社会的責任を果たしている。

#### <養成所の運営計画と将来構想>

点検 30. 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している

点検 31. その実施・評価は将来構想との整合性をもっている

#### 令和2年度評価結果

年間行事計画は、本校の教育理念を達成するための行事が組み込まれている。

養成所の運営計画と評価を理解できていないと回答するものがあるが、教育理念、教育目的、教育目標を達成するために運営計画を理解する努力が必要である

#### 令和3年度評価結果

年間行事等の計画は、前年度の実施状況を評価して立案している。

新型コロナ対策や、カリキュラム改正など社会的背景の状況に合わせて修正している。

#### <自己点検・自己評価体制>

点検 32. 自己点検・自己評価の意味と目的を理解している

点検 33. 実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にしている

点検 34. 自己点検・自己評価体制を整え、運用している

点検 35. 自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している

点検 36. 自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的・教育目標の維持・改善につながるよう機能している

#### 令和2年度評価結果

自己点検・自己評価の体制強化のため、学校評価委員会は課題の明確化に努めた。

学校評価委員会は計画的に活動しているが、教職員の中には知識と方法を十分理解していないと回答するものもある。全教職員が知識と方法を理解できるよう委員会内で知識を深め、委員会で得た知識を教職員全員へ明示する

学校の質の向上に向けて自己点検・自己評価を継続する。

#### 令和3年度評価結果

学校評価は全教職員が評価し、第三者の評価も受けて学校のホームページに掲載している。しかし、自己点検を行うための知識と方法が明確でないと回答している教職員もあり、学校評価の意味と目的の説明を今後も継続していく。自己評価を行うための資料として、自己点検のための評価基準、前年度の自己点検の結果を配布している。教職員自身が、学校運営について組織の一員であるという意識を高める必要がある。

## VI：入学

点検 1. 教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を述べているか  
点検 2. 入学者状況、入学者推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析、検証している

#### 令和2年度評価結果

令和元年 2.9⇒令和2年 2.8 と評価項目は満たしているものの、令和元年度と比較し 0.1 下降がみられた。しかし、入学者選抜については、教職員全体で判定会を行い、選抜することができており、選抜方法や考え方についても明確になっている。また、入学者の傾向などを分析し、学校訪問を計画的に実施することができている。訪問計画についても職員会議を通して教職員に周知されている。今後、新カリキュラムへ向けて、学校としてどのような学生を求めるのか、を明確にしていく必要があると考えられる。

#### 令和3年度評価結果

令和2年度 2.8⇒令和3年度 2.9 と上昇がみられた。入学者選抜については、教職員全体で判定会を行い、選抜することができており、選抜方法や考え方についても明確になっている。また、入学者の傾向などを分析し、学校訪問を計画的に実施することができている。訪問計画についても職員会議を通して教職員に周知されている。令和4年度新カリキュラムではアドミッションポリシーを掲げ、どのような学生に入学してほしいか、という入学者の受け入れ方針についても明示している。

## VII 卒業・就業・進学

点検 1. 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている

#### 令和2年度評価結果

令和元年 2.5⇒令和2年 2.7 と上昇がみられた。  
現行、実施はできているが、「2 ややあてはまる」と評価している者がおり、認識に差があると考えられる。

#### 令和3年度評価結果

令和2年 2.7⇒令和3年 2.8 と上昇がみられたが、15.3%「やや当てはまる」がみられ、「検討が必要」という回答もみられる。しかし、卒業においては卒業判定会による卒業判定を行っている。また技術到達度の確認や卒業時のカリキュラム評価も実施しており、卒業時の到達状況評価は計画的に実施することができている。

点検 2. 卒業時の到達状況を分析している

点検 3. 卒業生の就業・進学状況を分析している

点検 4. 卒業生の到達状況、就業、進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある

#### 令和2年度評価結果

令和元年より同窓会誌発行を実施している。また、卒業生が訪問時に、学年担当が活動状況を確認しているが、到達状況の分析までには至っていない。「分析が十分でない」という理由もあることから、卒業後の到達状況や就業・進学状況の情報収集手段について、今後も検討が必要であると考ええる。

#### 令和3年度評価結果

令和元年より同窓会誌発行を実施している。同窓会誌に、同窓生の近況を掲載するなど、学校とのつながりを維持することができている。同窓会役員のグループ LINE を通し、役員からの発信も行っている。

令和3年度は同窓生の認定看護師2名による講演を Zoom で実施した。しかし、卒業後の到達状況や就業・進学状況について分析にまで至っていないことから、今後も検討が必要であると考ええる。

点検 5. 卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている

点検 6. 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている

#### 令和2年度評価結果

点検 5、点検 6 ともに「1 当てはまらない」と評価している状況がみられる。今年度はコロナ禍により臨地実習が例年通りできず、指導者会が開催することができなかった。卒業生の就業先での状況について情報交換の機会が減り、卒業生の評価や把握が難しくなったと考えられる。しかし、これまでも具体的な評価については、把握しきれない状況もあるため、今後も評価する手段についても検討していく必要があると考えられる。

#### 令和3年度評価結果

令和3年度はコロナ禍により臨地実習が例年通りない状況が続く、病院側との情報交換の機会が減ってしまった。年2回開催予定の指導者会も年1回の開催となった。そのため、卒業生の評価や把握が難しくなったと考えられる。令和2年度の評価から引き続き、ではあるが、これまでも具体的な評価について、把握しきれない状況もあるため、今後も評価する手段について検討していく必要があると考えられる。

点検 7. 卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している

点検 8. 卒業生の活動状況の分析結果を教育理念、教育目的、教育目標、授業展開に活用している

#### 令和2年度評価結果

令和元年 2.5 ⇒ 令和2年 2.7 上昇がみられた。

令和元年度は無回答があったことにより 2.5 と低かったが、令和2年は評価項目への理解が教職員に周知がされたことにより無回答が減り、上昇したことも考えられる。

今後も卒業生の活動状況について把握し、調査分析できるよう継続していく。

#### 令和3年度評価結果

10%「当てはまらない」という回答がみられた。病院からの卒業生の活動状況報告、写真などは、学内に掲示、教職員は回覧をしている。しかし、活動状況の分析までは至っていないため、当てはまらないとの結果が出ていると考える。今後も卒業生の活動状況のついて把握し、調査分析できるようにしていく必要がある。

## VIII 地域社会・国際交流

点検 1. 社会との連携に向けて、地域ニーズを把握している

点検 2. 看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている

### 令和 2 年度評価結果

コロナ禍によりボランティア活動の制限など、学生が地域に出ていけない現状があった。令和元年度と比較すると令和 2 年は無回答が減り、結果的には上昇がみられている。評価理由についても「コロナ禍で地域に参加できない」「住民との関わりが減った」との回答がある。現在の世の中の現状に応じた新しい形で地域との関わり方について検討する必要があると考えられる。

### 令和 3 年度評価結果

昨年に引き続き、コロナ禍によりボランティア活動の制限など、学生が地域に出ていけない現状があった。しかし、学生がコロナワクチン接種のスタッフとして地域に貢献する機会があった。また、体育講義内で信夫山に上り地域を散策したり、昨年度コロナまん延により実施できなかった小学校、支援学校実習が実施できたりと、地域の現状について知る機会を得た。地域保健論などの講義においても地域の公衆衛生についてグループワークをして発表するなど、地域社会を知り関わっていく手段はあると考える。令和 4 年度 16 期生からの新カリキュラムにおいても、地域社会との連携やニーズの把握などを知るための科目もあることから、引き続き評価していく必要がある。

点検 3. 養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている

点検 4. 養成所から地域社会への情報を発信する手段を持っている

点検 5. 養成所が設置されている地域の特徴を把握している

点検 6. 地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている

### 令和 2 年度評価結果

点検 1、点検 2 同様コロナ禍により地域の状況の把握や情報発信について「十分とはいえない」と回答がある。現在の生活様式に合わせた地域社会への情報の発信や地域の情報を得る手段の検討も必要と考えられる。

カリキュラム改正においては、地域のニーズにあった看護師育成に重点をおくことから、学生が地域を知り学ぶだけでなく、教員自らも自分たちの地域について理解を深め、共同学習などを取り入れながら、地域から求められる看護師を育成していく必要がある。

### 令和 3 年度評価結果

「当てはまらない」は 0%であるが、「やや当てはまる」が 10%みられる。評価理由としては「不明」との回答もあげられているが、新カリキュラムにおいては地域に視点を置いた科目も設定されている。点検 6「地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている」については、点検 1、2 でも述べた通り、信夫山散策やコロナワクチン接種スタッフなど学習・教育活動として取り入れている。献血活動も年 2 回実施ができています。今後も継続した評価が必要である。今年度よりホームページが新しくなり、見やすさなどが改善された。またスクールガイドについても、今後新しくすることから、学校を拠点とした地域についての発信を、入学希望者に伝えていく。

点検 7. 国際的視野を広げるための授業科目を設定している。

点検 8. 国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。

点検 9. 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。

点検 10. 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応することができている。

#### 令和2年度評価結果

令和元年2.4⇒令和2年2.6となった。「無回答」が減ったことにより上昇と考えられ、前回同様「実績がない」との評価理由もみられた。今後は、地域を知ることと共に、地域で生活している外国人やそれらの人々の生活の場について理解を広げ、入学生となることを想定しながら、対応できる準備を整えていく必要がある。国籍や宗教、言語など、学校生活の中で必要となることを予測し、対応できる方法を考えていく。

#### 令和3年度評価結果

令和2年度に引き続き、評価尺度に差異がみられる。回答も「実績がない」「わからない」などがみられる。今後も地域を知ることと共に、地域で生活している外国人やそれらの人々の生活の場について理解を広げ、入学生となることを想定しながら、対応できる準備を整えていく必要がある。令和4年度16期生より電子教科書を導入する。言語の翻訳などを含めたICTの活用など、留学生が学校生活の中で必要となることを予測し、対応できる方法を考えていく必要がある。

## IX 研究

点検1. 教員の研究活動を保障（時間的、財政的、環境的）している

点検2. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている

点検3. 研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある

#### 令和2年度評価結果

教員の研究をサポートするための研究協議委員会は設置されているが、学会等での発表実績はない。

本年度は、新型コロナの影響もあり発表の場を紹介できなかったが、委員会として学会開催や研究発表の情報を提供する必要がある

研究時間の確保や研究費の支給、情報検索システムなどの支援体制を明確にし、教員相互で支援し合う体制を強化する。

#### 令和3年度評価結果

令和4年度カリキュラム改正にむけて、各自オンラインでの研修に参加したり、資料を活用するなど研究活動を活発に行った。このことにより評価ポイントは、前年度より0.1%上昇した。

しかし新型コロナ感染拡大のため、前年度同様発表の機会は少なかった。

研究時間の確保や研究費の支給、情報検索システムなどの支援体制は明確にしているが、研究者を助言する体制が整っていないと評価する教職員もいる。

今後は研究をするうえで、必要なサポートは何か教員間で話し合う機会を設け、内容を具体化するよう努める